

本種は6本の先端がやや丸い額歯があること、前側縁に6本の歯があり、前方の2歯がやや小さいことが特徴です。誰もが甲羅の特徴的な白い斑紋に気付くでしょう。もちろん、これも大きな特徴です。しかし、下の個体にはこの斑紋があ



2003年8月10日に衣ヶ島周辺の刺し網で捕獲された白斑を欠くモンツキイシガニ。

りません。細木・町田（2004）はこれを種内の色彩変異と考え、公表しました。カニでは珍しい現象と言えます。

本種が日本で初めて記録されたのは1922年とされていますが、この記録は疑問視されています。その後、1997年になって東京湾から浦戸湾にかけての各地で採集されるようになりました。浦戸湾の個体を写真とともに報告したのは細木・町田が初めてです。浦戸湾では甲幅9 cmに達しますが、8月から10月に抱卵雌が捕獲され、最小個体の甲幅は5 cmでした。

2005年3月9日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，  
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせは FAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。